

社会貢献活動

環境コミュニケーション



皆様と一緒に環境に配慮したライフスタイルを考えます **環境配慮方針 1-⑥**
環境に関して皆様とコミュニケーションを深めます **環境配慮方針 2-②**



取組方針

地域の人々とともに自然環境とのふれあいを楽しみながら、地域ごとの特性に応じた地球環境や地域の自然にやさしい暮らしを培う場や仕組みづくりなどを、地域にお住まいの方々とのパートナーシップにより進めます。

また、ステークホルダーの皆様と積極的なコミュニケーションを行うことで、真に求められるまちや住まいのあり方を模索し、環境にやさしい持続的発展が可能な都市への再生を進めます。

実績 2021年度の主な活動

4月3・4日
うめきた外庭SQUAREで「道の駅マルシェ」が開催されました



7月27日
新多間団地で「脱プラスチック社会へ～今すぐできる小さな改革～」を開催しました



6月10～30日
善行団地管理サービス事務所で「折り紙で作るゆり花壇」を展示
https://www.ur-net.go.jp/news/20210616_touchin_zengyo.html



12月4日
サンヴァリエ平塚で「ふれあい花と緑のフェスタ2021」を開催しました！



12月11日
中宮第3団地GOTOガーデンイベントを開催しました！
https://www.ur-net.go.jp/news/20211224_nishinohon_nakamiya.html



7月3日
朝倉団地と豊成団地で「押し花の七夕短冊づくり」を開催！
https://www.ur-net.go.jp/news/20210715_cyubu_asakura_toyonari.html



PICK UP



常盤平団地における豊かな緑地の利活用

常盤平団地（千葉県松戸市）では、団地建設以前からあるマツ等を保存した緑地に加え、団地建設時に植栽されたケヤキやサクラなどの樹木が60年の歳月を経て大きく成長しています。団地内の緑地は約20haに及び、周辺の公園や街路樹の緑と合わせて、地域の重要な環境資源、景観資源として認識されています。

住友林業（株）とUR都市機構は、本団地を共同研究のモデル団地と位置付け、屋外空間の魅力や課題についての分析及び緑地の再生・活用などの検討を行っています（2020～2022年度）。地域に寄り添った緑地の維持管理の実績が評価され、2021年4月には、住空間の緑として初めて公益財団法人都市緑化機構の社会・環境貢献評価システムSEGES「そだてる緑」の認定を取得しました。

当共同研究の一環として、本団地では初めての試みとして、お住まいの方を対象に2021年5月・10月にガーデンツアーを開催しました。

このツアーは、住友林業緑化（株）のガイドとともに散策しながら、団地の新たな魅力を発見し、屋外環境により親しみを持っていただくことと企画したものです。ケヤキの樹高を目測したり、木の実を採って食べたり、葉を採って匂いを感じたりと、身近な環境を五感で楽しむことができました。参加された方からは、「身近な緑に新たな発見があって感激した」「様々な季節に開催してほしい」などの声が聞かれました。

今後も、「みどり」のある居心地の良い暮らしの実現に向けて取り組んでいきます。



団地内の個性的なモニュメント。身近な環境を散策しながら新しい発見



山栗の実を採って食べてみた



ルーペで野草や虫を観察



カタバミの10円玉磨きに熱中

▼詳しく知りたい方はこちら
UR都市機構 常盤平団地 住空間の緑として社会・環境貢献緑地評価システム SEGES（シージェス）「そだてる緑」で初認定
https://www.ur-net.go.jp/aboutus/press/lrmhph000001se1p-att/ur2021_press_0414_sodaterumidori.pdf



価値創造のストーリー
SDGへの貢献
環境マネジメント
緑地・施設
特集
2021年度の活動
環境活動
社会貢献活動
企業統治
有識者意見
参考文献

環境に配慮したライフスタイルに向けた取組

居住者とのコミュニケーション



環境にやさしいライフスタイルを支援

地域の方々とともに、自然環境とのふれあいや環境にやさしい暮らしを培い、継承していくことを支援したいと考えています。

CASE STUDY

▶ 地域の方々の力による地域環境や価値の向上

2021年12月11～12日、ひばりが丘パークヒルズ・ひばりが丘団地（東京都西東京市・東久留米市）で、団地自治会とエリアマネジメント組織「一般社団法人まちにわ ひばりが丘」（以下「まちにわ」）と連携し、子育て世帯向けイベント「STAY HIBARI」を開催しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で制約がある中、自宅の近くで遊べるイベントとして、団地自治会、まちにわとUR都市機構グループが連携して、企画、運営を行い、（株）URコミュニティによる団地内遊具のお披露目イベントや、生活支援アドバイザーによるバルーンアート体験、自治会による昔遊びコーナーや、たんぼぼ幼児教室によるバザーのほか、（株）ポーネルドの移動遊び場、東京NEO-FARMERS!による地元生産野菜の販売も行われ、子ども連れのご家族を中心に両日で延べ1,900人にご来場いただき、世代を超えたイベントとなりました。当団地では、地域環境や価値を維持・向上させるために、エリアマネジメントを推進しており、2020年にはまちにわの運営が住民主体に移行しています。今回のようなイベントを通して、地域の方々の関係が深まり、まちの魅力の向上につながっており、今後も地域の皆様の力によって、さらなる発展が期待されています。



東京NEO-FARMERS!のお野菜マルシェ



たんぼぼマーケットでは、ゲームやおもちゃなど子ども向けの品物がたくさん並びました



ポーネルドの遊び場では、跳躍器具で飛んだり跳ねたり

緩和策

CASE STUDY

▶ UR賃貸住宅を核とした周辺エリアのさらなる魅力創出事業（シェアサイクル事業）

千葉市と連携し、UR賃貸住宅を核とした周辺エリアのさらなる魅力創出の一環として、市内にある一部のUR賃貸住宅において、2020年度よりシェアサイクルポートを設置しており、計14団地に設置しました。2021年度においては新たに習志野市でもシェアサイクル事業の取組が始まり、習志野市・千葉市それぞれと連携しながら習志野市内計5団地（袖ヶ浦団地など）、千葉市内計3団地（幕張四丁目団地など）に設置しました。

シェアサイクルを設置することで、さらなる地域活性・団地の魅力創出を図っていきます。



シェアサイクル



シェアサイクルポート

緩和策

CASE STUDY

▶ シェアサイクルポートの設置

2021年9月1日立花一丁目団地（東京都墨田区）、12月1日芦花公園団地（東京都世田谷区）において、シェアサイクルポートが設置されました。

これは、お住まいの方の利便性向上、低未利用地の有効活用を図るとともに、交通渋滞緩和、CO2排出量の削減、地域振興を目指して、ポートを誘致したものです。どちらの団地も最寄駅からはさほど遠くはありませんが、ちょっとした移動には少し不便がある立地です。シェアサイクルポートは昨年度から誘致しており、今後も積極的に設置を働きかけていきます。

団地にお住まいの方の利便性向上にとどまらず、広く社会にシェアサイクルが普及することにより、自動車への依存の程度が低減され、交通分野の低炭素化や道路交通の円滑化等、良好な都市環境の形成の一助となることが期待されます。



芦花公園



立花一丁目

CASE STUDY

▶ 横浜農業協同組合（JA横浜）との連携による移動販売等の展開

港北ニュータウンビュープラザセンター北他5団地（神奈川県横浜市）では、2021年11月から月1～2回ほど団地内敷地においてJA横浜の移動販売車で野菜販売会（マルシェ）を開催しています。毎回、1時間半の営業時間で、団地内外から40～50組ほどが訪れる盛況ぶりとなっています。

また、サンヴァリエ日吉（横浜市港北区）には上記のマルシェの開催日以外の日常的な買い物支援（主に子育て、共働き世帯を中心とした若年層世帯への買い物支援）として、クックパッド（株）のECサイト「クックパッドmart」の受け取り設備である「マートステーション」を設置しています。

この移動販売等導入の経緯は、UR都市機構とJA横浜との間で団地を含む地域コミュニティの活性化、団地居住者の利便（買い物）性の向上及び横浜地域における農畜産の振興を目的に締結（2020年11月）した連携協定に基づき、サンヴァリエ日吉の

空き店舗を活用した野菜販売会を計11回開催したことです。その後、JA横浜とすでに連携関係であったクックパッドも含め、新たに三者連携を構築（2021年8月）することで、「ポストコロナ、ウィズコロナ」における「新しい生活様式」を実現しつつ、「高齢者層に対する外出機会の創出」及び「子育て世帯等への買い物支援」を目指しています。

今後は移動販売やECサイトによる買い物環境の提供にとどまらず、将来的にはJA横浜の有する「農産物の収穫体験」やクックパッドの「料理教室」等のコンテンツを団地入居者及び地域の方々に展開し、地域のコミュニティ活動を支援していくことを考えています。

さらに、港北ニュータウンビュープラザセンター北では集会所へのテレワークスペースの設置とキッチンカーの導入を同時に展開することで、「新しい生活様式」の実現を推進しています。



移動販売車



野菜販売会の様子



食材の受け取り設備



販売した野菜

環境に関して皆様と コミュニケーションを深める取組

居住者等とのコミュニケーション



地域やお住まいの方とのコミュニケーション

UR賃貸住宅や地域にお住まいの皆様と一緒に、ワークショップやイベント開催等を通してコミュニケーションを図り、環境配慮に向けた連携を進めています。

CASE STUDY

▶ 地域の方々と里山の魅力を楽しむ取組 ～高森山の「樹名板DIYワークショップ」と「紅葉を見よう会」～

高蔵寺ニュータウン（愛知県春日井市）において、地域のシンボルである高森山で里山活動を行っているNPO法人高蔵寺どんぐりs（以下「どんぐりs」と）と連携し、イベントを開催しました。高森山での里山活動と高森山に生息する樹木名を子どもたちに知ってもらい、高森山や自分のまちに愛着を持ってもらうために企画しました。里山がもたらす暮らしの豊かさと地域活動を通じた多世代交流によるコミュニティ形成とニュータウン全体の活性化を目指しています。

① 2021年11月6日【樹名板DIYワークショップ】約40人の親子が参加

地域住民による高森山の整備活動の中で、手作業で切り出された間伐材（リョウブ）を使用した木材プレートを使って、オリジナルの樹名板づくりを楽しみました。全部で22種類の樹木名のプレートを約50枚製作し、裏側には製作者の名前やイニシャルを入れています。後日、高森山の散策路沿いの樹木へ取り付けました。



高森山の間伐材で樹名板を作成しました



オリジナルの樹名板が出来上がりました

② 2021年11月20日【紅葉を見よう会】

子どもからお年寄りまで約80人が参加

高森山の動植物に精通したどんぐりsのメンバーがツアーガイドを行う散策ツアーでは、樹木の特徴や名前由来、またこの地方にしか生息しない貴重な樹種等を説明し、時折クイズも出題しながら高森山の環境を楽しく学べる機会をつくることができました。山の中で自分が作った樹名板を見つけて喜ぶ親子や、鮮やかに色づいた落ち葉を拾って楽しむ子どもの姿が見られました。散策後は高森山で採れたどんぐりで作ったコマでの対戦や、落ち葉を使ったステンドリーフ、万華鏡づくりを行い、高森山の恵みを存分に感じてもらいました。参加された方からは「身近にこんなに自然を体験できる里山があることを知らなかった」「落ち葉で作った万華鏡がすごく綺麗だった」との声も聞かれました。



ツアーガイドの説明に熱心に聞き入る参加者



どんぐりコマ対戦で白熱する親子

適応策

CASE STUDY

▶ 小学校へのリサイクル出前授業（リサイクルスタディ）

2010年度より、大阪府、奈良県、兵庫県の建替事業等実施団地周辺の小学校（主に4年生）を対象に、環境教育の一環かつUR都市機構が推進する建設リサイクルのPR活動として、「リサイクルスタディ」を実施しています。

リサイクルスタディは、対面授業形式で、UR都市機構職員が、工事に伴う廃棄物の再利用などについてスライド写真を使用してクイズも交えながら説明したり、実物の廃材（コンクリート殻、木材等）を展示して、実際に子どもたちに見たり触れたりしてもらってきました。

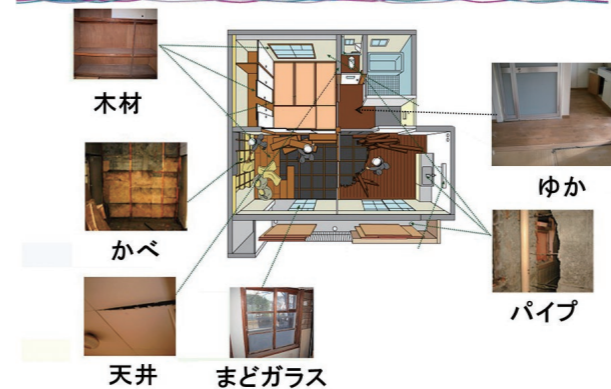
2019年度までに延べ49回（対象生徒約5,000人）開催してきましたが、2020年度より新型コロナウイルス感染症の影響で対

面形式による実施が困難になってきたため、同様の授業内容をDVDに収録して希望する小学校に贈呈し、視聴型によるリサイクルスタディを継続しています。

2021年度は、関東初の試みとして、西大和団地（埼玉県和光市）に近接する和光市立広沢小学校で実施しました。

10月13日、広沢小学校5年生約80人を対象に、解体した団地がリサイクルされる工程や、新しく建設する住宅の環境対策などについてクイズを交えて学ぶ座学授業と、解体工事で出る廃材や再資源化された資材の見本に触れる体験授業を行い、SDGsの視点を交えながら理解を深めてもらいました。

団地内のリサイクル（部屋の中） 部屋を直すときにはこんなものがリサイクルされます！



授業スライド（一例）



授業風景



クイズに積極的に答える5年生



廃材見本に触れる様子

▼ 詳しく知りたい方はこちら
リサイクルスタディ
<https://www.ur-net.go.jp/west/recyclestudy/index.html>



CASE STUDY

▶ ふたばまちなかガーデンプロジェクト

福島県双葉町は、2011年の東日本大震災の原子力災害により町の大部分の区域で避難指示が継続し、町民の皆さんは未だに帰還することができない状況が続いています。そこで、町を訪れるきっかけや町民同士のつながりをつくる取組として2020年12月に「ふたばまちなかガーデンプロジェクト」が始動しました。このプロジェクトはまちづくり会社である「一般社団法人ふたばプロジェクト」の主催で、UR都市機構は企画立案、補助金手続き、関係者調整等の支援を行っています。

2年目となった2021年度は、町内をはじめ、避難先となっている茨城県つくば市と埼玉県加須市、仮設校舎のあるいわき市の町立幼稚園・小学校・中学校において、町民の皆さんでプラン

ナーへの花植えを行いました。植えられたプランターは、双葉駅前やこのプロジェクトに賛同する町内企業の事務所などに設置されています。

また、2021年9月より補助金に依存しない持続的な運営を目指して「スポンサー花壇事業」をスタートして、このプロジェクトに賛同する企業より協賛金等を集め、少しずつ取組の輪を広げています。

双葉駅周辺の避難指示解除に向けて、帰還する町民、避難先で生活し続けることを決めた町民の皆さんがつながるきっかけづくりとなる本プロジェクトをUR都市機構としても引き続き支援していきます。



双葉町内にて花を植える様子



花を植える幼稚園児の様子



双葉駅西口前に設置されたプランター

CASE STUDY

▶ まちなかショーケースを活用した環境プログラムの実施

UR都市機構が運営するコミュニティ活動拠点施設「新虎小屋」(東京都港区)が、2021年10月、ベンチャー企業の技術や取組を発信するまちなかのショーケースとしてリニューアルしました。

「新虎小屋」は、新橋と虎ノ門をつなぐ新虎通りのにぎわいづくりのために、2018年からまちづくりの情報発信拠点として運営してきました。

今回のリニューアルで「新虎小屋」は、新虎通りエリアプラットフォーム協議会*と連携した社会実験の一環で、生物多様性を学ぶことができる環境プログラムを実施するなど、都心の活動拠点でありながら、地域の関心を高め、地域におけるコミュニケーションのきっかけとなるような情報や場を提供しています。

今後も新たな取組に触れられる場をきっかけに、地域の交流が活性化するような情報の発信をしていきます。

*港区芝地区総合支所と一般社団法人新虎通りエリアマネジメントからなる官民連携組織



港区芝地区総合支所と連携した環境プログラム



新虎小屋内観



CASE STUDY

▶ クロッカスの植え付け体験会

2021年12月16日、コンフォール柏豊四季台(千葉県柏市)において、地元保育園(柏市立豊四季保育園)の園児によるクロッカスの球根植え付け体験会を実施しました。これは、新たに整備した屋外緑地の一部を活用することで、地域の子どもたちに身近な自然を感じてもらおうと同時に、団地にも親しんでもらいたい、という想いで開催したものです。

当日は好天の中、年長組50人が参加し、2班に分かれて植え付



植え方を教わる園児たち



植えた後は埋戻し

け体験を行いました。園児たちは手にした球根を真剣な表情で植え付けており、終わった後には安心したような笑顔も見られました。体験した園児たちからは「もっとみんなでたくさん植えたい」「春に咲くのが楽しみ」との声も頂きました。

これからも柏豊四季台地区では環境に配慮した取組を通して、地域の皆様に快適な空間を提供できるように努めていきます。



植え付けの様子



クロッカスは春に花を咲かせます



CASE STUDY

▶ 魅力的な遊び場づくりのためのイベント「ひろばがあそVIVA!」を開催

高洲第二団地（千葉市美浜区）では、団地の魅力的な遊び場づくりによる地域活性化・屋外環境の有効活用を図るため、大妻女子大学の木下勇教授監修の下、広場改修計画の検討を行っています。その一環として、意見徴収及び実態調査を目的に、2021年10月13日、移動式遊び場を活用した参加型イベント「ひろばがあそVIVA!」を開催し、親子連れの方など約100人が参加しました。

イベントでは、屋外環境の魅力を活かした遊び、多世代が楽しめる遊びなどたくさんの外遊びメニューが用意され、参加した子どもたちは広い芝生広場で元気いっぱい楽しんでいました。参加者の皆様からは好きな遊びや広場に欲しい機能について様々な声をいただきました。

いただいた意見を活かしながら、新たな子どもの遊びの考え方（子どもの健全な発育を促す36の基本動作）に基づく「団地の屋外環境の魅力を活かした、自由度の高い遊び場」を創出・提供していきます。



遊びを楽しむ様子



参加者の皆様から意見をいただいている様子



綱渡りを楽しむ様子



団地内広場での移動式遊び場の様子

CASE STUDY

▶ 団地内コミュニティカフェ「みどりtoゆかり」と連携した団地内広場でのプランター野菜植え付け・収穫

2021年11月6日、ハイタウン塩浜（千葉県市川市）の中央広場で「塩浜えんがわ祭2021」を開催しました。

このイベントは、UR都市機構と団地内のコミュニティカフェ「みどりtoゆかり」（運営：東邦レオ（株））の共催で2019年から毎年実施しています。「みどりtoゆかり」が7月に子どもたちと一緒に団地内に設置したプランターへ野菜を植え付けし、「えんがわ祭」にて育った野菜の収穫を子どもたちが行いました。そして、収穫した野菜を使って地域の方がとり汁を調理し、祭りの参加者に振舞ってくれました。また、フラダンスやゴスペルなど各種ステージやトークセッションも行われ、多くの方でにぎわいました。

今回のお祭りに合わせて、「団地発クラウドファンディング！団地の魅力はそこで暮らす人で創ろう！」と題しクラウドファンディングとトークセッションを実施。集まった資金は、ここで出された課題の解決や地域の魅力向上に関するアイデアの実現に活用される予定です。

来場者へのアンケート結果では、参加理由として「楽しそうだったから」だけでなく、「以前も参加したから」と回答された方も多くみられ、地域に根付いたイベントになってきたことがうかがわれました。



自分たちで育てた野菜を収穫しました



収穫した野菜を地域のシニアボランティアの皆さんが調理しました



密を避けて、屋外のこたつでくつろぎました



屋外に作った芝生ステージでフラダンスショーが行われました



トークセッションの様子。UR都市機構の職員も飛び入り参加しました



その場にいたみんなでハイタウン塩浜の歌を歌いました

社会貢献活動

社会貢献活動の実施

さまざまな社会貢献活動を実施しています。



CASE STUDY

▶ 鹿へのどんぐり寄付イベント

2021年12月11日、真美ヶ丘6丁目団地（奈良県香芝市）で「どんぐり寄付イベント」を開催しました。

4年目となる当イベントでは、11月6～25日のどんぐり受付期間中、団地にお住まいの方や、近隣の真美ヶ丘保育所の園児たちにどんぐりを集めてもらいました。集まったどんぐりは、一般財団法人奈良の鹿愛護会に寄付し、奈良公園（鹿苑*）内の鹿に餌として与えられます。総勢66組144人（+保育所園児40人他・団地自治会）の方にご参加いただきました。

昨年に引き続きコロナ禍ということもあり、寄付していただく際には、受け渡しを行わずにできる「どんぐり募金箱」を使用しました。また、寄付いただいた方には、先着110名にお礼としてプレゼントをお渡ししました。

参加者からは「毎年楽しみにしている。孫と参加できてうれしい」「最近イベントに出向くことも少なくなったので、子どもと一緒に参加できるイベントが団地内であるのはうれしい。楽しかった」といった声が寄せられ、少しずつイベントの認知度が上がっていることも実感できました。

*けがをした鹿・病気になる鹿・出産期の母子鹿の保護などを行っている場所



どんぐり拾い初日「どんぐり山」の様子。たくさんの方にお越しいただきました



「どんぐり募金箱」に寄付してもらいます



寄付日当日、17箱305kgを寄付しました！



寄付したどんぐりをたくさん食べてくれました

**天然記念物「奈良のシカ」へのご支援
ありがとうございました。**

概ねURコミュニティ 奈良住まいセンターの皆様
日本総合生活種 奈良支店の皆様
真美ヶ丘6・7丁目団地、馬見岡6丁目団地ご協力の皆様
香芝市立真美ヶ丘保育所の皆様

貴重などんぐりをお寄せいただきありがとうございました。
国の天然記念物「奈良のシカ」の保護育成のために
大切に活用させていただきます。

受領品 ドングリ 305kg

令和3年12月11日

《御礼》
国の天然記念物「奈良のシカ」保護育成にご支援いただき
ありがとうございました。
奈良公園に生息する鹿約1,100頭、鹿苑内の鹿約300頭に
変わる皆様からの温かいどんぐりを確にお預かりいただき
ました。鹿たちも早く春の到来を待ち望みながら、この温
かいどんぐりのおかげで大変喜んでおります。
奈良の鹿愛護会職員一同は、日夜保護活動に励み、奈良
公園の鹿たちが元気に暮らせるよう今後も皆様と共に、鹿
たちをまっとうしていきたいと存じます。

一般財団法人奈良の鹿愛護会
会長 大川 昌則

一般財団法人奈良の鹿愛護会
〒630-8212 奈良市春日野町100番地1
TEL0742-22-2308 <https://nara-deer.com/>

奈良の鹿愛護会様より感謝状を頂きました

CASE STUDY

▶ 地域の清掃活動の実施

九州支社で地域清掃活動を実施

九州支社では、職員間のコミュニケーション活性化への寄与のほか、近隣にお住まいの皆様にもUR都市機構に親しみを持っていただけるよう、認知度、信頼感向上のための地域貢献活動及び環境美化活動として、有志にて、朝の支社近隣の清掃活動及び挨拶・声かけ運動を2019年度から毎月第1・第3水曜日に実施しています。新型コロナウイルス感染防止策のため見合わせていましたが、2021年10月6日より再開しました。

普段はあまり気にならないですが、実際にやってみると、たばこの吸い殻など細かいゴミが目について日頃のマナーの重要性を再認識できたり、意外と軽い運動にもなり一日を気分良く迎えられるなど、予想外の効果も感じられています。

今後も地域清掃活動を通して、地域貢献・環境美化に努めていきます。

本社周辺の清掃活動

本社が所在する神奈川県横浜市の北仲通南地区において、職員の有志が「Open Kitanaka-minami Project（通称：OKP）」として、エリア価値向上の検討・実践のため様々な活動をしています。その一環として毎月、本社周辺の清掃活動を実施しています。

この北仲通南地区は横浜市庁舎が地区内へ移転してきたことや、隣の地区には商業施設「北仲ブリック&ホワイト」がオープンしたことからにぎわいが増えています。こうした地域の関係者とも連携して、今後とも当エリアへの来訪者や近隣の皆様にもUR都市機構に親しみを持っていただけるよう、また、まちの環境維持に貢献できるよう、活動していきます。



URシャツを着用して一体感もアップ



支社長中心に職員有志で活動



清掃活動の様子

集合住宅歴史館（旧技術管理分室）（東京都八王子市）の一般公開を通じたUR都市機構技術の情報発信

集合住宅歴史館では、集合住宅や都市再生に関する技術の実験・研究を行ってきました。その成果を専門家だけでなく一般の方々にも広く紹介するため、施設の一般公開を行っています。2021年度は、東京都緊急事態措置等に基づく博物館等休業要請に従い4月26日より臨時休館しましたが、タブレットを併用した展示物等説明案内によるソーシャルディスタンスの確保、来館者及びスタッフの検温・消毒の実施等、感染症拡大防止策の徹底を図った上で休業要請解除後の6月1日より公開を再開し、計401組・946人の方にご来場いただきました。（八王子市での一般公開は2022年3月で終了。展示物等移設の上2023年春に東京都北区赤羽台にて（仮称）情報発信施設が開館する予定。）

URひと・まち・暮らしシンポジウム

UR都市機構では、「URひと・まち・暮らしシンポジウム（UR技術・研究報告会）」を毎年開催し、有識者をお招きした講演やパネルディスカッションを通じて、社会的課題を踏まえたこれからの時代のまちづくりや、新たな暮らし方などを議論するとともに、UR都市機構が取り組む事業・技術研究の報告を行っています。

2021年度は「スポーツと健康のまちづくり」をテーマに、10月6日に会場開催・LIVE配信を行うとともに、10月8～21日の期間でアーカイブ配信を実施し、全国から約1,300人の方にご参加・ご視聴いただきました。

技術研究の報告では、「緑と暮らす団地 みどりがつながる未来～多様な主体と環境にやさしいまちを目指して～」と題したUR都市機構の環境に関する取組などを報告しました。

職員研修や社内広報

職員の環境意識の啓発活動

セミナーやレポート、社内研修等を通して、職員の環境意識向上を図っています。

都市環境セミナーの開催

外部講師の方をお招きして、社内向けの「都市環境セミナー」を計3回開催しました。

2021年度はコロナ禍を踏まえ、全社へのオンライン配信、動画やセミナー講演内容をまとめたダイジェスト資料の共有を全職員に行い、広く周知を図りました。

UR都市機構では、環境配慮方針（→P.7）に従い、地球温暖化対策や自然環境保全を推進しているところであり、政策実施機関として、世の中の動向を見据えた新たな視点や対策の強化が必要になってきています。2021年度は、脱炭素社会の実現・生物多様性保全に向けた行動について自分事として捉え意識して業務に取り組んでもらうことを目的に、関連する最新の国内外の動向について有識者の方々に講演いただきました。

第一線で活躍している講師の方々に、気候変動とまちづくりとの関係性や動植物園での生物多様性保全の活動など、幅広く講演いただいたことで、今後業務を進めていく上での気付きを得ることができたと考えています。

第1回 2021年10月13日

テーマ

既成市街地の更新と気候変動緩和・適応策

講師

国立大学法人 東京大学
大学院工学系研究科
都市工学専攻 都市計画研究室 准教授
村山 顕人 氏



第2回 2021年11月19日

テーマ

気候変動対策の最新動向について

講師

環境省
地球環境局 総務課
脱炭素社会移行推進室 室長補佐
小福田 大輔 氏



第3回 2021年12月14日

テーマ

環境の世紀である21世紀の動植物園の役割 東山動植物園の環境教育や種の保存の取り組み

講師

名古屋市
東山動植物園
動物園教育普及等担当 主幹
今西 鉄也 氏



職員への環境情報発信

社内報や社内掲示板等を活用して、世の中の環境に関する最新情報等を職員に提供することで、環境配慮について考えるきっかけづくりを定期的に行いました。

環境情報一覧
(抜粋)

- 団地を活用した取組
- 環境配慮への取組
- 環境にやさしい暮らし



アーバンライフ立川（東京都立川市）ネオファーマーズマルシェ